

「夜、明ける」

作 仁田葉月

高橋みちこ 28歳。フリーター。ファミリーレスで働いている
田中まき 20歳。大学生。ファミリーレスで働いている
中村しおり 23歳。就活中。ファミリーレスで働いている
遠藤たくみ 23歳。社会人。事務の仕事をしている

プロローグ

音楽が流れるとともに明かりがつく
夜明け前。

午前4時。

もうすぐここからずっと先の遠いところから朝日が昇ってくる。
特にいつもと変わらない風景。

一昨日も昨日も今日も明日も明後日も
ずっとくり返されていく風景。

外の空気を吸い込んで、あたしはゆっくり息を吐く。
その風景をただじーっと見つめる。

遠くの方で聞こえる救急車の音と虫の声。
ただ静かに夜の街に響く。

近場にある古びた居酒屋の暖簾をおばちゃんが片付けている。
ファミレス。十字路。明け方の公園。信号機。揺れる木々。電車、
イルミネーション。車の排気ガス。コーヒーの匂い。黒猫。

築45年の古びたアパート。

あの人の面影。
ここから見えるこの風景。

自分はいつまで覚えているのだろうか。
どれもいつか忘れてしまうのだろうか。

君はあのままにいるのだろうか。
私は変われるのだろうか。

そんなこと、わからない。
けれど、

止まない雨はないように
明けない夜もない。

シーン、みちこの生活

みちこの部屋。出勤前。

みちこ 午後4時。

なんとも言えない悪夢を見たあたしは、
起きたとき、汗でびっしょりになっていた。

どんな夢かは思い出せない。
すごく嫌な夢。

その夢の嫌な余韻に浸っていると、時計は、いつの間にか
午後4時半。

やばい。

あたしは急いでシャワーを浴びる。

みちこ、シャワーを浴びている。

みちこ シャワーの水があたしの中にあるモヤモヤを確実に
洗いながしていく。

みちこ、シャワーを浴びた後支度する。

みちこ 服を着て、髪を直したりして支度をし終わる頃には、だいたい5時半。

玄関のドアを開けて、部屋を出る。

空はすっかり赤くなっていた。

今日もバイトは朝までだから、

出勤前にコンビニで小腹が空いた時用のごはんを買う。

みちこ、アパートを出て、コンビニに入る。

1 ただいま肉まん50円びきです！

みちこ コンビニの店員がやる気なさそうな声で言う。

特に肉まんが食べたかったわけではないけど

50円引きというその言葉に惹かれて肉まんを買う。

あの、すみません。肉まん一つください。

1 かしこまりました。以上でよろしいでしょうか？

みちこ はい。

1 かしこまりました、以上で130円になります。

みちこ お願いします。

1 ちようどいただきます。こちらレシートになります。

ありがとうございます。

みちこ どうも。

店員から受け取ったレシート。正直いらない。

けれど捨てるタイミングを失ったこのレシートはあたしのポケットの中に突っ込まれる。

1 ありがとうございます。

みちこ、コンビニを出る。

みちこ そうしてコンビニを出た後は、勤務先であるファミレスへと向かう

シーン、バイト①

ファミレス。

みちこ、しおり、まきが接客している。
その後、場面がバックヤードへと移る。
バックヤード。

みちこ お疲れ様です。

しおり お疲れ様です。

まき お疲れ様です！

しおり いやあ、マジ大変でしたね！今日客激混みじゃないですか？

まき ほんとですよ

しおり 私今5連勤なんですよ

みちこ うわあそれは大変だね。

まき そういえば昨日やばいカップルが来たんですよ

みちこ へえー

まき なんか女の方がいかにも女って感じで！

男の方も男の方でクソうるさいんですよ

しおり なんかそういうタイプ苦手です

まき てか聞いてくださいよ！この前ラスト店長と二人きりになって

なんか急に店長が俺買い物行ってくるから締めやっというて

言われたんですよ

締めやったことないのに

しおり え、本当？

まき 本当です

みちこ 訴えもんだね

しおり それで結局どうしたの？

まき 副店長にとりあえず電話して、電話しながらやりましたよ

しおり 大変だったね

まき 大変でした。

まき なんかもう嫌になりますよね。どっか遊びとか行きたいです。

みちこ 温泉とか？

しおり いいですね。

まき 温泉もいいですけど、気軽に行けるところとかいいですよ

この前大学の友達が言ってたんですけど、

ここからちょっと行ったところに水族館できたらいいですよ

しおり え、そうなんだ

みちこ そういえばしおりちゃんってまだ彼氏さんと同棲してるんだよね。

しおり そうですよ。

みちこ 一緒に行ってみれば？

しおり あーいいかもしれないですね。

まき え、彼氏さんいるんですか？

みちこ え、知らなかったの？

まき 初耳です。

しおり まあここではそんなに話ししませんからね

まき みちこさんはなんで知ってるんですか？

みちこ しおりちゃんが引っ越ししてきたときに挨拶しに来たからね。

まき そうなんですね。なんか同棲って憧れますよね。

しおり そうかな

まき はい。なんか夢があるじゃないですか。

今度よかったら紹介してください

しおり いいよ。

みちこ あれ、でも今日これで上がりだよ

しおり あ、はい。お先に失礼します。

まき え、まじですか？いいなあ。おつかれさまでーす。

みちこ お疲れ様でーす。

しおり お疲れ様です。

しおり 帰宅する。

シーン、しおりとたくみすれ違い①

しおり、自分の部屋に帰宅する。

しおり ただいま。

しおり、携帯で調べものをする。

その後、たくみが帰ってくる。

たくみ ただいま

しおり おかえり

たくみ まだ起きてたの？

しおり うん。心配だったから。ご飯あっためる？

たくみ いいや。

しおり え、でも何か体に入れないとダメだよ。

たくみ 明日食べるよ

しおり そっか。わかった。

たくみ ごめん。

しおり 大丈夫だって！たくみくん頑張ってるんだしさ。

あ、そうだ今度出かけようよ。さっきバイト先の子が言ってたんだけど、ここからちょっと行った先に水族館ができたんだって。調べてみたけどすごい楽しそうだよ。最近お互い一緒にお出かけとかできなかつたじゃん？

たまにはリフレッシュも大事だと思うし！どうかな？行かない？

たくみ そうだね。

しおり あ、でもあれだよ。忙しかったら別に今度でも

たくみ 大丈夫だよ

しおり そっか。じゃあ行こう。

たくみ うん。

しおり あ、なんか引き止めてごめんね。疲れてるんだよね

たくみ 大丈夫。

しおり もう寝る？

たくみ お風呂はいつてくる
しおり わかった

たくみ風呂に入りに行く

シーン、まき生活

まき いらっしやいませー！

ファミレスでバイトしている。そのうち
バックヤードへ場面が移る。

みちこ お疲れー！

まき お疲れ様です

みちこ あれ、今日もうあがり？

まき はい。

みちこ そっか。お疲れ様！学生は大変だね

まき まあそうですね

みちこ あれ演劇やってるんだっけ？

まき あ、はい。

みちこ ああ！そうだよね！偉いよね。大学も頑張りつつ大変だよね

まき まあ

みちこ 気をつけて帰ってね

まき はい。ありがとうございます。

じゃあ、お先にしつれいします。

みちこ お疲れさまですー！

まき、夜道を歩いている。

まき 特にいつもと変わらない。

今日もこの道を歩く。

薄暗いこの通りを外灯が照らしてる。

その時に一瞬吹いた風の冷たさにびくっとして体が縮む。

まっすぐ行くと

十字路に差し掛かって

あたしは右へと曲がる。

そこにあるのが

築45年くらいの古びたアパート。
このアパートの303号室があたしの部屋。

まき
ただいま。

まき、自分の部屋へと到着するが、返事はない。
寝っころがる。

まき
はあ。疲れた。

時計を見る。

まき
だいたいアルバイトが終わって帰ってくると午前4時半。

この部屋に一人で暮らしている。

つい1年前までは家に帰ってくると家族がいた。

東京も東京で交通も便利だし過ごしやすいけど、排気ガスはもうすごいし
人が多すぎる。大学の学バスの列なんてもう行列で、昔一度だけ行った
ディズニールランドみたいな有様だった。

最近はちょっと慣れたけど。

ああーおなかすいたな。

家事は全部一人でやってるけど、お母さんのご飯がたまに恋しくなる。

お母さんの作るハンバーグが食べたい。

あ、そうだ洗濯物取り込まなきゃ。

どうしよう。

こんなこと考えながらゴロゴロしていると、いつの間にか
寝ちゃってることが多い。

アラームが鳴る。

まき
気づくともう時計が8時位になって、急いであたしは
学校に行く準備をする。

家を出る。

まき

大学に着いて一通りつまらない授業を終える。

楽しそうな学生たちを横目にあたしはバイト先へと向かう。

まきの友達が話しかけてくる。

1 あ、ねえまき！

まき 何？

1 近くに水族館できたんだって。

まき そうなんだ

1 一緒に行かない？

まき いつ？

1 授業ない日とかある？

まき 木曜日授業入ってないけど、バイト入っちゃってる。

1 えーいつもそう言って断るじゃん

まき ごめんって。また誘って

1 じゃあ次こそ予定合わそう

まき うん

1 じゃあね

まき バイバイ

友達去る。

まき

学校に行っては、アルバイトをして

たまに空いた時間を使ってオーディションに行く。

その繰り返し。

やりたいことをやれてるから楽しいはずなのに

少しだけしんどい。

シーン、みちこ

みちこ、道を歩いている。
親子が歩いている。

1 ねね、お父さん。

2 なあに？

1 お月様出てる

2 本当だ。綺麗だね

1 あのお月様取れるかな？

2 どうだろうね。

1 お月様とりたい

2 何やってるの

1 もうちょっと！

2 もう少しおおきくなったら届くかもね

1 うーん

2 ほら、もう帰るよ

1 うん！

親子去っていく。

それを見つめるみちこ

シーン、みちこ 過去①

みちこ 人間には二種類の人間がいて、

まあ要するに勝ち組と負け組の人間。

あたしはというと、負け組の人間だった。

それを意識し始めたのは、幼馴染の愛ちゃん。

回想。小学生の頃。愛ちゃんの部屋

1 ねえ、みちこちゃんみて！

みちこ 何？

1 ほら！お月様まんまるだよ！

みちこ 本当だ！手届くかな？

1 えー届かないよ

みちこ 愛ちゃんは同じ日に生まれて、同じ学校に通ってて、家も隣同士。ずっと一緒だった。

回想。小学生の頃。公園

みちこ あ、愛ちゃん。あのさ・・・

3 愛ちゃん！一緒にあそぼー！

1 いいよ！

2 何して遊ぶ？

みちこ おままごとは？

3 えーなんか他のがいいよ

みちこ あ、そうだよ

2 愛ちゃんなんかいいの？

1 じゃあ缶蹴り！

3 賛成！

1 みちこちゃんも一緒にやろうよ

みちこ あ、うん・・・。

1 最初はグー！じゃんけんぽん！

じゃんけんした結果愛ちゃんが鬼になる。
缶蹴りする。

2 愛ちゃん凄いね！

1 そんなことないよ！みちこちゃんも凄いよ！

みちこ え、そうかな

3 二人小さい頃から一緒なんでしょ？

いいなあ。そういうの憧れる。

みちこ 明るく元気いっぱいな愛ちゃん。

暗くて静かなあたし。

友達作り方も、勉強も、運動も。

愛ちゃんには勝てなかった。

学校も誕生日も同じなのにこんなにも違いが出るあたし。

あたしにとってはそのことがコンプレックス以外の何物でもなかった。

中学校に入るとなおさらその差は明確で、

愛ちゃんのおかげで出来た友達もクラスが離れると

まるであたしのことなんか知らないようなふりをしてきた。

あたしの周りは誰もいなくなってた。

回想。中学生。教室

みちこ 愛ちゃん、一緒に帰ろう

1 あーごめん今日、かなちゃんとなつるくと約束あって、

もしあれだったら二人に聞いてみようか？

みちこ いや、あたしはいいや

1 そう？

3 愛ちゃん、早く行こう

2 ゲーセンとか？

3 いいね賛成！

2 はいはい！そのあとプリクラ撮りたい！

3 お前、プリクラ好きすぎ

1 いいじゃん。いこいこ

みちこちゃんまた明日ね！

みちこ うん。また明日。

みちこ 最初はすごい寂しかった。

なんであたしだけこんななんだろうって。でも次第に諦めがついた。

ただ単に愛ちゃんは勝ち組の人間で、

あたしは負け組の人間なんだから。

でもそんなあたしにも転機が訪れた。

高校生。

クラスが同じだった山田くん。

彼と付き合うことになった。

ある日の放課後、山田くん呼び出されて告白されました。

あたしはびっくりして思わず、こちらこそと答えてました。

こんなあたしのどこがいいのか全くわからなかったけど、

それでも一緒にいてくれる山田くんのことを好きになっていました。

高校を卒業してから、あたしと山田くんは別々の大学に

行くことになったけど山田くんとの関係はずっと続いてて、

彼とはこれからもずっと一緒にいるもんだと思っていました。

シーン、しおり過去①

1 え、ねえねえ！もしかしてはるかちゃん？

2 うん！なおみちゃんだよね？

1 そうそう！わぁーよかった！

2 よろしくね！

しおり ふと耳に入る私と同じ新生らしき子たちの声。

入学前に、すでにツイッターで知り合ってる友達みたいだ。

私もツイッターでリプしようか、

けどなかなか勇気が出なくて、そっとツイッターを閉じた。

授業を受ける。

たくみがしおりに声をかける。

たくみ ねえ、

しおり ？

たくみ ペン貸してもらってもいいですか？

しおり いいですよ

たくみ ありがとうございます！

チャイムの音。

授業終わる

たくみ あの。

しおり はい

たくみ ペンありがとうございました。助かりました。

しおり いえいえ。

たくみ あ、名前なんていうんですか？

しおり しおりって言います。えっと・・・

たくみ たくみです。なんて呼べばいいですか？

しおり あ、しおりで。なんて呼べばいいですか？

たくみ たくみでいいですよ

しおり たくみくん。よろしく！

たくみ よろしく

しおり 私が大学入ってから初めての友達。それが彼でした。

彼とはそれから授業で何度も会うことになりました。

彼は優しくて、一緒にいるとすごい楽しかった。

二人で遊びに行っ

何の理由もなく遅くまで公園で語り合ったり。

私はだんだん彼のが好きになっていました。

その日も二人で遊んだ帰りにバス停でバスが来るのを

待っていました。どれだけ待っても全然バスがこなくて、

なんかお互い無言で。

すると、たくみくんの手が私の手に当たったんです。

たったそれだけのことですけどすごい緊張したのを覚えています、

それからしばらく経った後、大学三年生の春。

私はたくみくと付き合うことになりました。

付き合ってからもしっかりと仲良くやってきて

四年生になってからは、お互い就活で忙しかったけれど

二人で一緒に住もうって夢を叶えるためにも頑張りました。

しおり 就活活動している。

しおり 中村しおりです。本日は宜しくお願ひ致します。

1 それでは早速、面接を行いたいと思います。

面接官から質問が飛び交う。

1 一分間で自己紹介をお願いします。

2 学生時代どのようなことをしてきましたか？

1 自分の長所と短所はなんですか？

2 入社後、何をしていきたいですか？

- 1 自分が大切にしていることは何ですか？
- 2 ボランティア活動は何かしていますか？
- 1 他に受けている企業はありますか？
- 2 学生時代にした失敗とどう乗り越えたかを教えてください。

しおり 面接官からまるでドッジボールのように質問が飛んでくる。

私は飛んできたそのボールを落とさないように必死に受け止めて答えます。

- 1 以上で面接を終了させていただきます。

本日はありがとうございます。

後日、改めて連絡させていただきます。

しおり ありがとうございます。失礼します。

しおり もしもし。終わったよ

たくみ お疲れ様。どうだった？

しおり ーんーだろう。今度こそは通ってほしいけど。

とりあえずは結果待ちって感じ。

たくみ いつ結果出るの？

しおり 来週。

たくみ そっか。

しおり でも今回も落ちてるかもしれない

たくみ そんなことわかんないよ。

しおり うん

たくみ 大丈夫だって。とりあえずは結果待とう

しおり そうだね。

しおり 大学卒業間近になっても私は内定が決まらず、

たくみくんはというともう内定が決まっています

正直結構落ち込んだし焦っていました。

メールの着信音が鳴る。

しおり、メールを読み上げる

しおり 中村しおり様
採用担当です。

先日はお忙しいところ選考にご参加いただき誠に
ありがとうございました。

慎重に選考させていただいた結果、

誠に残念ながら今回は採用を見送らせていただくことになりました。

あしからずご了承下さいますようお願い申し上げます。

今回の募集に関しましては、ご応募多数につき、慎重に選考を重ね、

このような結果になってしまったこと、お詫び申し上げます。

何卒ご理解賜りますようお願いいたします。

中村しおり様の今後の益々のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

しおり 何通目かのお祈りメールが届く。
またうまくいかなかった。

たくみから電話かかってくる。

たくみ もしもし

しおり もしもし

たくみ どうだった・・・？

しおり ダメだった。

たくみ そっか・・・。

しおり また次の企業に書類書かなきゃ。

たくみ しおり最近ちゃんと寝てる？

しおり ーあんまり

たくみ ちゃんと寝れる時は寝ないと、

しおり まあそうだよね

たくみ そんな根詰めたっていいことないよ。

大丈夫だよ。一緒に頑張ろう

しおり ありがとう。

しおり 結局私は今に至るまで内定をもらうことはできませんでした。

けれど私のそばにたくみくんがいてくれて
応援してくれるということが大きくて。

私はたくみくんと生活しながら、アルバイトをしつつ
就活を続けることになりました。

そして大学も卒業して住み始めたのがこのアパートです。

たくみ なんか緊張するね

しおり そうだね

たくみ はあ、社会人かー

しおり がんばって！たくみくんなら大丈夫だよ

たくみ ありがとう。しおりも就活頑張ってるね。

しおり もちろん！頑張りますよ。

たくみ これからもよろしくね

しおり うん。

しおり たくみくんは毎朝早くから家を出て、夜遅く帰ってきます。
毎日すごい頑張ってる、

私も頑張らなきゃと思わせてくれました。

私は、就活の面接の合間にもアルバイトをすることになりました。

この前挨拶しに行ったみちこさんという人や同じく

このアパートに住んでるまきちゃんという大学生の女の子がいます

そこで仕事を終えてから、家へと帰ります

今日はたくみくんの大好きなシチュー。

私はたくみくんがお腹を空かせて帰ってくるのをひたすら待ちます。

たくみ、帰宅する

しおり おかえり

たくみ たいま

しおり 今日はね、シチューだよ

たくみ 本当に？ありがとう。

しおり たくみくんの笑顔が見れると私は嬉しくなります

でも最近

たくみ ごめん今日疲れてて。

しおり そっか。ゆっくり休んでね。

たくみハケる

しおり 日を追うごとにたくみくんの疲労がたまっているのがわかりました。

多分仕事のことでも精一杯になってるんだと思います。

たくみくんが私のことを支えてくれたように私も支えてあげたい。

たくみくんはどうしたら楽になれるんだろう。

シーン、たくみ過去①

場所は部屋の中。

しおりがたくみを見送る。

たくみ 行ってきます。

しおり 行ってらっしゃい。

たくみ このアパートを借りたのは大学を卒業してからすぐだった。

お互い一人暮らしだったけど、卒業したのをきっかけに

同棲することになった

学生の頃から夢見てた二人暮らし。

俺は毎日がとても幸せだった。

場面は会社へと移る。

たくみの挨拶とともに会社員たちが出勤する。

たくみ おはようございます。

全員 おはようございます。

1 ねえ遠藤くん。

たくみ はい。

1 ここミスしてるんだけど。

たくみ え、本当ですか？

1 ほら

たくみ あ、すみません！

1 早く直して

たくみ はい！すみません。

2 ちょっといい？

たくみ はい！

2 今日の朝までにお願いしたデータもう出来てる？

たくみ これですよ？

2 あ、そうそう！ありがとうございます！あとね、今度の会議でパワーポイント

作成してもらってもいい？

たくみ あ、わかりました！

1 ちよっと何休憩してるの！まだまだ仕事山積みなんだからね！

たくみ はい、

1 もうここは学校じゃないの。わかる？

新人だから許されるなんてそんなことないからね。

ほら、やって。

たくみ はい。すみません。

2 ねえ、遠藤くんさ、明日の会社の飲み会くるよね？

たくみ いや今回は遠慮しておきます。やること結構多いんで。

2 前から思ってたんだけどさ、そういう付き合いも

仕事のうちだと思っただけ

たくみ すみません

2 まあ今回は仕方ないけど、次からは頼むよ

たくみ はい。すみません。

たくみ、ひたすら作業する中、会社員たちは次々に帰っていく。

ひと段落つき、家へと帰る。

たくみ いただきます。

しおり おかえり。

たくみ まだ起きてたの？

しおり うん。心配だったから。ご飯あっためる？

たくみ いいや。

しおり え、でも何か体に入れないとダメだよ

たくみ ごめん。疲れてるんだ。

しおり そっか。ゆっくり休んでね。

たくみ 最初は何もかもが新鮮だった。けれどそれがいつの間にか、

同じことの繰り返しになっていた。

朝早く出て、仕事に向かって、夜遅く帰ってくる。

学生の時と比べて、生活がガラッと変わって、

自分に余裕もなくなっていた。
しおりとゆっくり話す時間も少なくなつて
彼女との距離がどんどん遠くなつていくのを
なんとなく、いや理解していた。けれど。
今更その離れてしまった距離を埋める方法も分からない。

シーン、まき過去①

まき あたしが演劇をやりたいと思ったきっかけは

昔、お母さんに連れてかれて見た、無名でこじんまりとした劇団のお芝居。劇場は小さいし、お客さんもそんなにいないけど。

演じてる人たちがキラキラしてて、眩しかった。

それであたしは、中学校から高校までの6年間演劇部に入ることになった。

演劇をやってる時間は嫌なことも全部忘れられてすごい楽しかった。

高校三年生になると受験がやってきて、

あたしはこのまま演劇を大学でも学ぶか。

それとも演劇をやめて違う学科へ行くかの二つの選択肢のどちらかを選ぶことになりました。

まき、高校生時代。

母と話している。

まき あのさ、進路の話なんだけどさ

1 なあに。

まき 演劇やりたいなって思ってるんだけど。

1 演劇？

まき うん。演劇好きだしさ、大学でもやっていきたいなって

1 何言ってるの。演劇が何のためになるの。もっと将来のこと考えなさい。

まき 考えてるよ

1 本当に考えてるの？うちはお金ないってわかってるでしょ？

仕送りも送れないから向こうでアルバイトしてもらわなきゃなんだし。

そんなことやってる時間ないでしょ

まき そうかもしれないけど

1 演劇に引っ張られないでもっと現実的にみなさい。

東京の方の大学入っちゃんと勉強すればいい就職先も見つかるから。

そうすればまきだって将来困ることはないし。

これはまきが将来幸せになってほしいから言ってるのよ

まき

うん・・・。

1 ほら、もうこんな時間よ。おやすみ
まき おやすみ

母、寝る。

3 田中さんは歴史の成績がいいから、教職をとって演劇部の顧問に
なればいいんじゃない？

2 まきが本当にやりたいことってなんなの？
やりたいことがあるならやったほうがいいよ

まき あたしは、考えて、考えた結果、普通の大学に入ることになりました。

電車のアナウンスが流れる

まき 東京行き電車に座って

外の景色をあたしは眺めていた。

景色がどんどん変わっていく。

緑色だった外はいつの間にかグレーっぽい同じような建物が
ずらっと並ぶようになりました

電車の停車音。

まき アパートについてあたしは持ってきた荷物を整理する。

これはここに置いて・・・。

これはここに置く。

何時間も掛かってようやく整理し終わる。

まだ見慣れない新しいあたしの部屋を見回して

ああ、あたしはここで一人で生きていくんだってなあって、

なんとも言えない気持ちになった。

それから大学に入ってからの一年間あたしはただひたすらに
勉強しました。

演劇には一切触れないようにしていました。

触れたらきっとやりたくなくなってしまっただろうな
というのはわかっていたから

でもある日、大学の帰りに歩いていると劇団の
チラシが目映りました。

それは役者をオーディション募集するというものでした。
あたしは迷いました。

演劇はやめようって決めたのに今になってもやりたいっていう
気持ちが忘れられなかったから。

だからあたしはもう一度お母さんに自分の気持ちを伝えることにしました。

まき、母に電話かける。

まき
もしもし

1
もしもし。どうしたの

まき
今時間大丈夫？

1
大丈夫よ、何？仕送り？言ったでしょそんなお金ないって

まき
そうじゃなくて、

1
何？

まき
あたしね演劇やることにした

1
演劇？

まき
うん。一年間大学通って思ったんだけど、

やっぱり演劇やりたいなって思って。

自分がやりたい事やらなきゃ意味ないなって思ったんだ

1
そんな演劇までやるお金はないでしょう。

まき
それは自分で働いたお金でやるからお母さんは心配しなくて大丈夫だよ

1
そう

まき
え、なに

1
ちゃんと考えてるの？

まき
考えてるにきまつてるじゃん

1
演劇やってどうするの

まき
どうするも何もあたしがやりたいからやるんだよ

1
オーディション受けたって受かるかどうかなんてわからないし。

うまくいくとは限らないでしょ。

まき そんなのやってみなきゃわかんないって

1 将来のことも考えておかないと。就活頑張ってもらわなきゃ

まき まだ早いよ。

1 何言ってるの。大学生活なんてあつという間よ。ちゃんと準備しなきゃ

まき わかったよ

1 本当？

まき 本当だって。お母さんが心配するようなことなんて何もないから。

最初からうまくいかないとか決めつけないでくれない。

1 これはまきのためを思ってるの。我が儘言わないの

まき あたしのためって、それお母さんのためじゃん

もういいよ。

まき、電話を切る

シーン、バイト②

ファミレス。

クレーム客がいる。

まき、呼び出される。

1 すみません

まき はい！

1 さっきさこのビール頼んだんだけどさ

まき はい

1 このビールさ、泡の量多くね？

まき えっと・・・

1 え、多いと思わない？

まき そうですかね

1 どうなの？泡飲めって言うの？

まき それでその値段なの？え、なんなの？ここの店どうなってんの？

まき ……

みちこ、やってくる。

みちこ 失礼します。

お客様いかがなされましたでしょうか？

1 さっき来たビール、泡の量多いんだよね

みちこ あ、こちらですね

1 うん、そう。これどうなの？居酒屋と比べて全然少ないんだけど

みちこ そうですね。一応こちらでも測らせていただいでるんですけども

こちらをすぐ交換させていただく形でも

よろしいでしょうか？

1 すぐ変えて

みちこ かしこまりました。すぐお持ちいたします。

1 こちらの方代金は入りませんので・・・
いや別にいいよ

みちこ こちらの責任です。で代金いただくわけにはいきませんので・・・

1 いやでもこれ変えてくれるんでしょう？

みちこ はい

1 まあそしたら別にいいよ。

みちこ 大変失礼いたしました。すぐお持ちいたします。

あたしやっどくからいいよ

まき ありがとうございます。

まき、引き続き接客をしている。

何回か接客したのちにバックヤードへと移る。

みちこ お疲れ様です。

まき みちこさん。さっきはありがとうございました。

みちこ 別に大丈夫だよ。

しおり 何かあったんですか？

みちこ いやなんかね、ちょっとクレームが入ってね

しおり うわ・・・。大丈夫だった？

まき みちこさんのおかげで何とか。

しおり たまにいますもんね・・・。なんて言われたの？

まき ビールの泡の量がおかしいって

しおり え、何それ

まき 本当困りますよね

みちこ まあ、あんな感じで対応すればいいから。

まき はい。ありがとうございます。

しおり みちこさん本当凄いですよね

みちこ 何が？

しおり 接客とか凄いテキパキしてるじゃないですか。

みちこ そうかな？

しおり そうですよ。みちこさんのおかげでここのお店まわってますもん。

まき 確かにみちこさんいなかったら大変ですよ

みちこ そんなことないよ。あたしなんて全然

まき いやいや本当に助かってますよ。

みちこ そう？ありがとうね。

まき あ、もうそろそろ休憩終わりですね

みちこ あ、本当だ。行こっか

まき はい

しおり 私そろそろお先に失礼しますね。

みちこ もうそんな時間だったんだ。お疲れ

しおり お疲れ様です

まき お疲れ様です。

しおり 帰宅する。

シーン、しおりとたくみ すれ違い②

休日。しおりとたくみ水族館に行く

しおり 久しぶりの休日。たくみくと前に約束していた水族館に行くことになった。

しおり、たくみ二人で水族館を回ってる。

しおり ねえ、見てみて！ニモだよ。可愛い

たくみ 本当だ

しおり 結構小さいね

たくみ そうだね

しおり あ、隠れちゃった

たくみ あれドリーじゃない？

しおり あ、本当だ！綺麗だね。

たくみ そうだね。

しおり 他になんか見たいのある？

たくみ しおりの好きなのでいいよ

しおり そう？じゃあ、あっち見てみよう

たくみ いいよ

しばらく水槽を眺める。

しおり たくみくん大丈夫？

たくみ 何が？

しおり やっぱり今度にした方が良かったんじゃない？

たくみ いや全然大丈夫だって

しおり 大丈夫じゃないじゃん

たくみ そんなことないよ

しおり え、楽しくない？

たくみ 楽しいよ

しおり 今日全然元気ないじゃん
たくみ 元気だよ。

しおり ならいいんだけど・・・。

しばらく沈黙になる。

しおり そろそろ帰る？

たくみ そうしようか。

しおりとたくみが帰る。途中でまきと出会う。

まき あれしおりさん？

しおり まきちゃん？

まき お疲れ様です。

しおり お疲れ様。どうしたの？

まき 今ちょうどオーデイションに行くところなんです。

あ、もしかして彼氏さんですか？

たくみ あ、はい。遠藤たくみです。

まき 田中まきです。アルバイトでしおりさんと一緒に働いています。

たくみ ああそうなんだ。よろしくお願いします。

まき お願いします！おでかけですか？

たくみ まあ

しおり そんなところ

まき そうなんです。あ、あたし時間なんでそろそろ行きますね

デート楽しんでください

しおり ありがとう。また明日ね

まき はい！

たくみ どうも。

まき去っていく

たくみ 帰ろうか

しおり うん

二人、部屋に帰宅する。気まずい空気が流れる。

しおり そうだ、お風呂沸かさなきゃだね。沸かしてくるね
たくみ ああ、ありがとう。

しおりお風呂を沸かしに行く。

たくみ しおりとの距離を埋められるかもしれないと思った。

けれど、それどころか余計に開いてしまった。

俺はどうしようもなくなって、

目を閉じて考え込んでいると、いつの間にか眠りに落ちて、夢を見た。

それは俺が彼女の事を好きになるきっかけになったある日のことだった。

たくみの夢の中。夜の公園。

たくみ それは付き合う数ヶ月前のこと。

俺は、しおりのことはずっと仲のいい友達だと思ってたから

恋愛感情？みたいなものはなかった。

ある日、二人で深夜の公園に星を見に行った。

その日はふたご座流星群かなんかが流れる日らしく、

それを知ったしおりから一緒に行かない？と誘われた。

行ってみたはいいものの、流れ星なんか一切流れない。

ただただ時間だけが過ぎていく。

しおり 全然見れないね

たくみ そうだね。もうちょっと粘ってみる？

しおり うん

沈黙。

たくみ 寒いね

しおり うん。・・・やっぱ帰ろうか。

たくみ そうしよう

しおり なんかごめんね。せつかく誘ったのに

たくみ いいよ

たくみ そう言って俺たちは諦めて帰ることにした。

その時。

流れ星が流れる。

二人 え、

しおり え、今のみた？

たくみ 見た見た！

しおり え、すぐくない？

たくみ まさに俺たちが帰ろうとした時、ひとつだけ流れ星が流れた。

一瞬だったけど、確かに流れた。

しおり 綺麗だね。

たくみ その時、しおりが空を見ながら笑った。

しおりの横顔と空には星空と丸い月。

俺の目に映ったその風景がとても綺麗で、俺はその日から

しおりのことが気になり始めた。そしてだんだんとそれは、

好き。という感情に変わっていった。

朝になっている。

たくみ起きる。

たくみ 眼が覚めるともう朝になっていた。

トーストとコーヒーの匂いがしてくる。

一緒に住んでからは、しおりはいつもこうやって俺のために朝ごはんを作ってくれる。ごめん。しおりのために俺は何もしてやれてない。

しおり おはよう！ご飯出来てるよ。
たくみ おはよう。うん。ありがとう。

二人、ご飯食べる。

しおり 今日も遅くなりそう？

たくみ うん。そうかな

しおり そっか。

たくみ しおりは？

しおり 私も今日はバイトかな。あとは面接の準備って感じ。

たくみ 頑張ってるね。

しおり ありがとう。

食べ終わり、たくみ出て行く。

たくみ じゃあ、行ってきます

しおり 行ってらっしゃい。

シーン、みちこ過去②

愛ちゃん、みちこと会う

1 え、ねえ。みちこだよね？

みちこ え、愛ちゃん？

1 やっぱりみちこだ！すごい久しぶりだね

みちこ そうだね

1 え、元気にしてた？

みちこ まあ

1 数年ぶりだよね？

みちこ そうだね

1 え、なにしてるの？

みちこ 大学行ってるよ

1 あ、まあそうだよね。てか大学とか違うところも会わないもんだね

みちこ そうだね。愛ちゃんは？

1 あたしも大学だよ。国立頑張って入ったよ

みちこ え、すごいね。

1 いやもうすごい勉強したよ！

みちこ 愛ちゃんは昔からすごいもんね

1 そんなことないよ。みちこもすごいって

みちこ ありがとう

1 そういえばさ彼氏とかできた？

みちこ 彼氏？

1 そうそう！いないの？

みちこ え、あたし？

1 うん

みちこ ・・・いるよ

1 えー！！どんな人？

みちこ え。優しく、穏やかな人かな

1 何年くらい続いているの？

みちこ 高校生の頃からだよ

1 そうなの？長いじゃん

みちこ まあそうだね

1 羨ましいわー

みちこ え、愛ちゃんはいないの？

1 いないんですよー

みちこ え、嘘だよ、

1 いやほんとう。もう悲しいよ。でもね気になる人がいるんだけど、その人と今度のクリスマススイブにデートできることになったの。

みちこ そうなんだ

1 そうなの！それでその日に告白しようかなって思ってるの

みちこ 絶対うまくいくよ

1 そうかな。応援してね

みちこ うん応援するよ

1 お互いいいクリスマススイブ過ごそうね

みちこ うん

愛ちゃん去る。

みちことその彼氏が電話をしている。

みちこ ねえねえ

1 何？

みちこ 今度の日曜日さ何の日かわかる？

1 えーわかんない

みちこ それ本当に言ってるの？

1 嘘に決まってるでしょ。クリスマススイブでしょ

みちこ せいかーい！空いてる？もし空いてたら一緒に出かけたくなーって。

1 ごめん。その日バイト入っちゃってさ。

みちこ えー

1 本当にごめん。バイト人がいなさすぎて、

どうしてもって言われちゃってさ。

みちこ どうにかできなかつたのそれ

1 他の奴にも頼んだんだけどさ、断られちゃって・・・

みちこ えーせっかくあたし休み取れたのに

1 ごめんね。今度必ず予定空けるから。その時また一緒に出かけよう。

みちこ わかったー。頑張ってるね。無理しすぎはダメだよ

1 ありがとう。もう夜遅いから寝た方がいいんじゃない？

みちこ そうだね。おやすみ。ありがとね電話

1 ううん。大丈夫だよ。おやすみ

みちこ おやすみ

電話を切る。

と同時に場面はクリスマスイブ。

みちこ クリスマスイブ当日。

特にやることもないあたしは理由もないけど、

外に出て歩いてた。

すると、せっかくの日だっていうのに雨が降ってきた。

傘の群れとイルミネーションが街を覆う。

雨が降ってくる。

通行人が傘をさしている。

みちこ、ある人物を見つける。

みちこの彼氏と女が一緒に歩いている。

みちこ、そのまま立ち尽くす。

みちこ あたしはやっぱり負け組だった。

携帯のアドレス帳にあった山田さんの文字を消して

あたしは走った。

走って、走って、走って、走った。

そして24時間営業っていう文字を光らしているファミレスに駆け込んだ。

とりあえず、コーヒーを頼んで、息を整える。

だんだんと落ち着いてくると、

ただただ悲しくなった。

その時にふと目に入った、アルバイト募集のチラシ。

飲み終わったコーヒーを片付けに来た店員に突きつけて
ここで働かしてください。

と手渡したその日からこのファミレスでずっとバイトをしている。

大学を卒業してからも特にやりたいことも見つからず、

あのことを忘れるために、一人暮らしを始めた。

そしてバイトをしてしばらくして

この築45年の古びたアパートに、新しい住人がやってきた。

みちこの目線には、たくみとしおりが立っている。

たくみ あ の、高橋さんですか？

みちこ はい。

しおり あ の私たちここに新しく引っ越してきたものです。

みちこ はあ

たくみ どうぞ宜しくお願いします。

みちこ どうも

たくみ、しおり去っていく

みちこ やってきたのは大学卒業したてだという幸せそうな若いカップル。

昔のあたしもあんな風に見えていたのだろうか。

あの日のことが頭をよぎる

思い出したくない

頭がいたい。

気持ち悪い。

あたしは窓際にある椅子に座る。

なんだろう。

もう一人には慣れたはずなのに、なぜか寂しい。

シーン、まき 現在

オーディション会場。
試験官がいる。

1
それでは名前お願いします。

まき 田中まきです。よろしくお願いいたします。

受けたのは、ある劇団のワークショップ兼オーディション。

なんかよくわかんないけど、いかにもお偉いさんです！みたいな人たちが
ずらっと並んでいる。

心臓がぼくぼくする。

ジャガイモ、ジャガイモ。ジャガイモ。これはジャガイモだ。

大丈夫だ。大丈夫。大丈夫。

そう心の中で念じて、なんとか乗り切る。

けれど、結果はダメだった。

これで3回目になる。

どれだけやっても実らない。

オーディションも無料ではないし、一人暮らしだから家賃も払わなくちゃ
いけない。かつかつだ。

もっとバイト入れなきゃ。

まき、バイトをしている。

まき お疲れ様

しおり お疲れさまです。

大丈夫？なんか疲れてるみたいだけど

まき 大丈夫ですよ。

しおり あんま無理しすぎないようにね

まき はい。ありがとうございます。

しおり もう上がりでしょ？

まき はい。

しおり 気をつけて帰ってね。締めとかやっておくから。

まき ありがとうございます。

じゃあ、お先にしつれいします。

しおり お疲れ

まき、夜道を歩いている。

まき そして今日もまたこの道を歩く。

シーン、たくみとしおり

しおり 部屋に帰宅している。
その後、たくみ帰宅する。

たくみ ただいま

しおり おかえり。

え、今日早いじゃん。どうしたの？

たくみ 仕事早く切り上げてきたんだ

しおり そうだったんだ

たくみ うん

しおり あ、ご飯食べる？あつためないと。

たくみ あのさ

しおり あ、もう寝ちゃう？

たくみ いやそうじゃなくて

しおり 何？

たくみ ・・・あのさ

しおり うん

たくみ 公園行かない？

しおり 公園？

たくみ そう。明日、どうかな？

シーン、バイト③

ファミレス。

従業員が接客している

次第にバックヤードへと移る。

みちこ お疲れ様です。

しおり お疲れ様です

まき お疲れ様です！

しおり いやあ、本当大変でしたね！今日客激混みじゃないですか？

まき ほんとですよ

しおり 私最近入ってなかったんでびっくりしました

まき あ、就活でしたっけ？

しおり そうそう。面接があって

みちこ うわあそれは大変だったね。

しおり まあでもあとは結果次第なんで待つだけです

みちこ そっか。まきちゃんは就活はするの？

まき あたしですか？あたしはまだ悩んでいます

みちこ そうだよ。まだ早いか

まき まあでも演劇に関われたらなって思っています。

しおり いいね。自分の好きな事やらなきゃね

まき そうですね。あっ！

まき そういえば昨日もまたやばいカップルが来ましたよ

みちこ へえー

まき 相も変わらずなんか女の方がいかにも女って感じで！

男の方も男の方でクソうるさいんですよ

しおり やっぱそういうのは苦手だな

まき この前店長に締めやらされたって話したじゃないですか。

みちこ あーしてたね。

まき それがまた店長とあって、お前！

なんで一気に皿運べないんだって怒られたんですよ。

あたし手が小さいから

3皿までしか運べなくて、4皿は本当に無理なんですよ。
でも運べないと給料下げるぞって

しおり え、本当？

まき 本当です

みちこ 訴えもんだよ

しおり それで結局どうしたの？

まき いやあもう頑張りましたよ

しおり 大変だったね

まき いやもう本当に大変でした。

しおり あ、そうだ！私これであがりなんでお先に失礼します。

まき え、いいなあ。てか今日いつもよりちよっと早いですよね。

何か予定でもあるんですか？

しおり まあちよっと

みちこ 気をつけて帰ってね。

しおり はい。おつかれさまです。

みちこ お疲れ様です。

まき お疲れ様です。

しおり 帰宅する。

シーン、それぞれの夜明け たくみ、しおり

たくみ、公園で待っている。

しおりも合流する。

しおり お待たせ。

たくみ 仕事お疲れさま。

しおり たくみくんもお疲れ様。ごめん。待たせちゃったよね？

たくみ ううん、全然

たくみ ・・・なんか懐かしいね。

しおり そうだね。いつぶりかな？

たくみ 1年ぶりだよ。

しおり そっか。まだそんなに経ってなかったんだね

しばらく空を眺めている。

たくみ しおり明日も仕事でしょ？付き合わせてごめんね。

しおり そういうたくみくんも明日仕事でしょう？

たくみ まあ

しおり 大丈夫。もうちょっと見てたいから

たくみ そっか。

たくみ、しおりが空を見上げている。

場面が変わり、まきの帰り道。

シーン、それぞれの夜明け まき

まき オーディションの帰り。

あたしは電車で揺られていた。

夕方時、電車内はサラリーマンや学生達で埋まっている。

人の間からたまに見える外の景色をあたしは眺めていた。

景色がどんどんと変わっていく。こうやって外を眺めると、この町に

やってきた日のことを思い出す。

この町はあたしの住んでいた町と比べて建物が多くて、夜になると

車や人の通りが多い。近くの居酒屋の明かりも朝方まで付いている。

車の排気ガスや救急車の音だったり、なんだか落ち着かないし

少し経った今でもあまり慣れない

電車の停車音。

まきに電話がかかってくる。

まき もしもし。

1 もしもし。

まき お母さんどうしたの

1 最近どうしてるのかなって心配になって

まき そっか

1 ちゃんにご飯は食べてる？

まき うん

1 無理しすぎてない？

まき うん

1 どう？大学は。うまくやっけていけるの？

まき まあいろいろ大変だよ。

1 演劇はうまくいってるの？

まき まあまあかな。また今度オーディション受ける。

1 そっか。

まき なんか大変だね。なかなかうまくいかない。

1 うまくいくことなんてそうそうないよ

まき まあそうだよね

1 でも頑張ったら必ず身につく日が来るから
まき うん

1 だから大丈夫。まきは頑張ってるよ
まき ありがとう

1 もう家なの？

まき ううん、まだ

1 気をつけて帰きなさいよ

まき うんありがとう。

1 おやすみ。

まき、電話を切る

まき 特にいつもと変わらない。

今日もこの道を歩く。

薄暗いこの通りを外灯が照らしてる。

その時に一瞬吹いた風の冷たさにびくっとして体が縮む

まっすぐ行くと

十字路に差し掛かって

あたしは右へと曲がる。

そこにあるのが

築45年くらいのおびたアパート。

このアパートの303号室があたしの部屋。

場面は変わり、みちこ、窓の外の景色を見ている。

シーン、それぞれの夜明け みちこ

みちこ、窓際の椅子に座っている。

みちこ 小さい頃のあたしは月に手が届くと信じていました。

けれど大人になっても未だに手が届きません。

信じることさえも諦めてしまいました。

所詮は小さい頃の夢です。

ただそんなことさえも信じられなくなったことが少し悲しい。

エピソード

音楽流れる。

夜明け前。

午前4時。

もうすぐここからずっと先の遠いところから朝日が昇ってくる。
特にいつもと変わらない風景。

一昨日も昨日も今日も明日も明後日も

ずっとくり返されていく風景。

外の空気を吸い込んで、あたしはゆっくり息を吐く。

その風景をただじっと見つめる。

遠くの方で聞こえる救急車の音と虫の声。

ただ静かに夜の街に響く。

近場にある古びた居酒屋の暖簾をおばちゃんが片付けている。

ファミレス。十字路。明け方の公園。信号機。揺れる木々。電車、

イルミネーション。車の排気ガス。コーヒーの匂い。黒猫。

築45年の古びたアパート。

あの人の面影。

ここから見えるこの風景。

自分はいつまで覚えているのだろうか。

どれもいつか忘れてしまうのだろうか。

君はあのままにいるのだろうか。

私は変われるのだろうか。

そんなこと、わからない。

けれど、

止まない雨はないように

明けない夜もない。

全員でムーブメントを行う。

その後音楽がやみ、照明暗くなる（または明るくなる）

終演。